

平成14年度

本態性多種化学物質過敏状態の調査研究

研究報告書

平成15年3月

財団法人 日本公衆衛生協会

総 目 次

A . 目 的	1
B . 検討会委員	1
C . 調査研究結果	3
第 1 章 二重盲検法による微量化学物質曝露試験	3
第 2 章 マウスを用いた動物モデルに関する研究	1 7 9
D . 付録 The role of neural plasticity in chemical intolerance - 化学物質不耐性における神経の可塑性 - (Ann NY Acad Sci vol 933 2001 要約)	2 8 9

本態性多種化学物質過敏状態の調査研究

A. 目的

近年、環境中に存在する微量な化学物質による環境汚染や人体汚染が大きな社会問題となっている。とりわけ、シックハウス症候群に代表され、その関連性が指摘されている本態性多種化学物質過敏状態（いわゆる化学物質過敏症）については、不確実な点が多いものの、科学的知見の収集を急ぐ必要がある。

そこで、本調査では、平成12年度に実施した二重盲検法のパイロットスタディを踏まえ、本格的に二重盲検法を実施することで、本病態が化学物質によって誘発されるか否かを検証した。

また、平成10年度の報告で課題に挙げられていた「モデル動物を利用した非アレルギー性の過敏状態の発症機序の検討」を昨年度に引き続き実施することで、メカニズムの解明を図ることを目的とした。

B. 検討会委員（順不同 敬称略）

座長	大井 玄	独立行政法人国立環境研究所顧問、東京大学名誉教授
	相澤 好治	北里大学医学部衛生学公衆衛生学教授
	荒記 俊一	独立行政法人産業医学総合研究所理事長、東京大学名誉教授
	安藤 正典	国立医薬品食品衛生研究所環境衛生化学部長
	浦野 紘平	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授
	久保木富房	東京大学医学部附属病院分院心療内科教授
	竹中 洋	大阪医科大学医学部耳鼻咽喉科教授
	土屋 悦輝	工学院大学工学部応用化学科講師
	西岡 清	東京医科歯科大学皮膚科学教授
	橋本 信也	国際学院埼玉短期大学副学長
	藤巻 秀和	独立行政法人国立環境研究所環境健康研究領域生態防御研究室長
	吉村 健清	産業医科大学産業生態科学研究所臨床疫学教授
	鈴木 達夫	（社）北里研究所医療環境科学センター長
	宮田 幹夫	（社）北里研究所北里研究所病院臨床環境医学センター客員部長
	遠乗 秀樹	北里大学医学部衛生学公衆衛生学助手
	嵐谷 奎一	産業医科大学産業保健学部教授